

情報通信審議会 情報通信技術分科会
新世代モバイル通信システム委員会（第 36 回）

－ 議事概要 －

1 日時

令和 7 年 9 月 5 日（金）10:00～11:15

2 場所

Web 会議

3 出席者（敬称略）

（1）委員等

森川 博之、三瓶 政一、伊藤 伸器、岩浪 剛太、大神 正史、大岸 裕子、大坂
亮二、上村 治、河東 晴子、川西 直毅、小林 真寿美、辻 ゆかり、藤井 威生、
町田 菜穂、山本 祐司

（2）オブザーバ

坂本 信樹（株式会社 NTT ドコモ）
鞆田、奥山、市橋（株式会社三菱総合研究所）

（3）総務省

五十嵐 大和（移動通信課長）、
乾 浩斉（移動通信課課長補佐）、
岩佐 直毅（移動通信課 第二技術係長）
渡邊 真也（移動通信課 新世代移動通信システム推進室 システム企画係長）

4 議題

（1）HAPS 検討作業班の検討結果の取りまとめ（高高度プラットフォーム（HAPS）の技術的
条件）

HAPS 検討作業班の藤井主任から委員会報告案取りまとめのご報告があり、詳細は
事務局及び（株）三菱総合研究所から、資料 36-1「委員会報告（案）「高高度プラット
フォーム（HAPS）の技術的条件」概要」及び資料 36-2「委員会報告（案）「高高度プ
ラットフォーム（HAPS）の技術的条件」に基づき説明がなされ、質疑応答がなされた。

大岸専門委員：3 点質問する。大規模災害が起きた時、複数の HAPS でエリアを確保す
ることは想定されるのか。ゲートウェイ局も臨時で被災地の近くに配置することは
想定しているのか。天候による減衰や障害になるような課題は想定されているか。

奥山氏：1 点目のご質問について可能性はある。2 点目、3 点目のご質問は事業者様
の課題と思うが、天候等が障害となる可能性はあると考えるが、その辺りは事業者

様が回線設計などで検討される部分と認識している。

事務局：2点目はそのようなユースケースも考えられると思うので、制度整備の際に検討していきたい。3点目は実用化された後に運用のノウハウが各事業者において蓄積されると思われるので、その中で課題が出てくる可能性はあると考えている。その際に制度面の課題が出てくるようであれば総務省で検討していくことになると考えている一方で、技術面の課題については各事業者でご対応いただくことになるという認識である。

大岸専門委員：ありがとうございます。実際の運用の中でもまた次々課題が出てきたら、そのたびごとに検討していただくことになるかと認識した。

藤井主任：1点補足する。1点目のご質問は、(資料 36-1 の) 57 ページに N: 1 という形で複数局からの干渉要求も今段階で考慮しているため、これをもとに計算が大丈夫だという状況になっている。

(2) その他

次回会合については改めて連絡する旨、事務局より報告があった。

以上